

に、天王星を発見したときの報告書のコピーが載せられており、発見当時のようすがわかって興味深い。また、天王星 (Uranus) という名前に決まるまでに提案されたいろいろな名前や、ハーシェル以前にもそれとは知らずに天王星の多くの観測があること (すでに 1690 年にはフラムステードによる観測がある) なども紹介されている。

天王星の発見自体が人々の太陽系に対する描像を大きく変えたが、それから約 200 年後の 1977 年に再び天王星が注目されることになった。この年に天王星の環が発見されたのである。環を持つ惑星は土星だけではなく。この環の発見についても重要な観測記録や写真とともに簡潔にまとめられている。

さらに約 9 年後の 1986 年にまたまた新たな事実が明らかになった。ボイジャー 2 号が天王星から数々の写真や観測データを送ってきたのである。本書の後半の部分はこのボイジャーによる最新のデータを中心にまとめられており、最もおもしろい部分である。最初にボイジャー本体や観測装置についての説明があり、次にボイジャーが写した木星表面や土星の環の美しい写真が紹介されている。そのあとでいよいよ天王星の観測結果にうつるわけだが、天王星本体よりも天王星の環や衛星の写真の方が印象的であり、ここではこれらを中心に多くの写真が示されている。まず環に関しては、1977 年に発見されていた環の非常にシャープで細い姿をとらえた写真に加えて、イプシロンリングとその両側にあるシェパード衛星の写真や、無数といつていいほど多くの環の存在を示す写真が興味深い。また 5 大衛星については、あたかも地球から月を見ているかのようにはっきりと表面のようすが写されている写真とそれらの表面の地図 (すでにクレーター等に名前がつけられている) も載せられている。なかでも、衛星ミランダの表面の写真は激しい過去の歴史を物語っており、見る人に強烈な印象を与える。この他にも、ボイジャー 2 号が発見した小さな衛星 (ジュリエットとかロザリンドというような名前がつけられている) の写真もいくつか載せられている。

本書のタイトルには“Atlas”という言葉が用いられているが、本書は単なる“地図帳”ではなく天王星の発見から最新の知識までをわかりやすくまとめたものである。なお細かいことを言えば、一部の図や写真およびその解説においてわかりづらい点もあるが、全体としては一般向けの読物として適当である。邦訳が出版されることが望まれる。

(吉川 真)

## お知らせ

### 京都大学理学部宇宙物理学教室教授公募

1. 公募人員 教授 1 名
2. 専攻分野 天体物理学 (観測)
3. 提出書類 履歴書, 研究歴, 論文リスト及び主要論文別刷, 今後の研究計画書
4. 公募締切 平成元年 9 月 30 日
5. 着任時期 決定後できるだけ早い時期
6. 宛 先 京都市左京区北白川追分町 (〒606)  
京都大学理学部宇宙物理学教室  
加藤 正 二

### 京都大学理学部物理学第二教室教官公募

- 募集人員: 助手 1 名  
専門分野: 天体核物理学  
着任時期: 決定後できるだけ早く  
提出書類: 履歴, 論文リスト, 研究歴及び今後の抱負  
公募締切: 1989年10月10日(火)  
提出先: 〒606 京都市左京区北白川追分町  
京都大学理学部物理第二教室主任 三宅弘三  
問合せ先: 同教室 佐藤文隆  
電話 075-753-3831  
その他: 封書に「公募書類在中」と明記のこと。

### 東北大学理学部天文学教室教官公募

- 公募人員: 教授 1 名  
専門分野: 天文学 (理論分野の方)  
着任時期: 1990年4月1日  
提出書類: 履歴書, 論文リスト, 主要論文別刷り, 研究計画書  
応募締切: 1989年9月30日必着  
宛 先: 〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉  
東北大学理学部天文学教室  
主任 竹内 峯  
(封筒に教授応募書類在中と明記のこと)  
問合せ先: 竹内 峯 (電話 022-222-1800 内線 3321)

### 特別公開のお知らせ

国立天文台 野辺山電波天文台  
電波天文学研究系  
野辺山宇宙電波観測所  
野辺山太陽電波観測所

当観測所では、天文知識の普及と観測所の仕事を広く知って頂くため、下記の要領で観測所の諸設備を一般の方に公開致しますので、ご案内申し上げます。

1. 日時 1989年9月23日(祝) 午前10時から午後4時半まで
2. 内容
  - (1) 見 学 通常の見学コースの他、45m望遠鏡の観測室、10m 5素子干渉計の観測室、観測データを処理する計算室等を見学できます。
  - (2) 展 示 宇宙からやってくる電波を捕らえる観測装置の仕組みや、最近の観測結果を展示します。
  - (3) 講 演  
奥村幸子 「宇宙のささやきを聞こう……」

電波による天体の観測

海部宜男 「宇宙と物質のはじまり」  
井上 允 「VLBI: 宇宙に広がる巨大望遠鏡」

(4) その他 質問コーナー等

3. 交通 小海線・野辺山駅下車, 徒歩 25 分

\*尚, 観測内に食堂はありませんので, ご承知おき下さい。また恐縮ですが, 各自入室用の上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

問い合わせ先 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山  
野辺山宇宙電波観測所  
Tel 0267-98-2831  
(代表) 神沢, 亀谷, 新田, 川口

銀河観測による宇宙論ワークショップ II

今回のワークショップでは, 下記のようなトピックスを選び, その宇宙論的な意義を考えた上で, 具体的な観測テーマを議論し, 実現していきたいと思ひます。ワークするグループをいくつか作り, そこでそのテーマの意義・可能性を議論した上でワークショップに臨むという形をとりたいと思ひます。

日時: 1989年12月18日(月)午後3時~21日(木)午後3時

場所: 長野県木曾郡上松町菅 国民宿舎「ねぎめホテル」

トピックス:

1989年6月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	16,	158	11	—,	—	21	17,	117
2	15,	140	12	15,	277	22	—,	—
3	13,	122	13	16,	296	23	—,	—
4	12,	161	14	16,	334	24	—,	—
5	14,	122	15	—,	—	25	—,	—
6	15,	104	16	—,	—	26	18,	254
7	10,	82	17	—,	—	27	—,	—
8	15,	156	18	—,	—	28	—,	—
9	—,	—	19	—,	—	29	12,	276
10	—,	—	20	—,	—	30	—,	—

(相対数月平均値: 198.8)

銀河形成・原始銀河  
Narrow Band Photometry

銀河進化  
Deep Survey

銀河速度場  
Large-Scale Streaming Motion, Local Velocity Field

銀河団・超銀河団の構造  
Large-Area Photometric Survey

尚, このワークショップは国立天文台の共同利用研究会として行われます。旅費の補助は, パネラーに対しては行方予定ですが, それ以外の参加者には可能ではないと思われまふ。参加希望の方は, 8月31日までにお申し込み下さい。

世話人: 上野宗孝, 梅村雅之, 吉岡 諭 (国立天文台)  
太田耕司 (京大理学部宇宙物理)  
岡村定矩 (東大天文センター木曾観測所)

問い合わせ・参加申し込み先: 吉岡 諭

〒181 三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台理論天文学研究系  
TEL 0422-41-3744  
FAX 0422-41-3746

◇ 9 月 の 天 文 暦 ◇

日	時	分	記	事
4	17	25	月	最遠
8	18	49	上	弦
10	10	15	天王星	留
11	14	27	土 星	留
11	23	0	水 星	留
15	20	51	望	
17	0	18	月	最近
21	13	51	海王星	留
22	11	10	下	弦
24	21	17	天王星	東矩
25	7	11	水 星	内合
30	4	0	火 星	合
30	6	47	朔	

◇ 9 月 の 日 月 惑 星 運 行 図 ◇

